南郷小

主体的に学び合う児童の育成
～話す意欲を高める対話活動を通して～

（３年計画の１年次）

校長　　乗松　朋博

１　研究主題について

本校では、教育目標に「豊かな心をもち、たくましく生きる子」、努力目標に「すすんで学習する子（知）」を掲げ、主体的に学習に取り組む児童の育成を目指している。また、学校目標を「学び合い、認め合い、高め合う子の育成」とし、学ぶ楽しさや喜びを感じることを通して、基礎学力の定着と主体的に学ぶ力や表現力を身に付けさせることを目標としている。

昨年度まで取り組んできた算数科の授業実践を通して、児童が見通しをもって課題解決に取り組み「わかった」「できそうだ」という学習意欲を引き出す授業づくりの工夫を図ることができた。一方で、問題解決に対して児童に必要感をもたせたり、「自分の考えを伝えたい」「他の考え方を知りたい(聞きたい)」という思いをもたせた交流活動に広げたりすることができなかったという課題が残った。

また、令和３年度のＣＲＴ学力検査の国語科における大領域「話す･聞く」に関する問題の得点率を見ると、全国平均を上回っているものの「書くこと」「読むこと」の領域よりも低く、自分の考えを「分かりやすく」伝える力や「相手が伝えたいことを的確に」聞き取る力が十分に身に付いていないことが分かった。このことについては、教科指導に限らず、日常生活においても本校の大きな課題となっている。

そこで、今年度は、解決したいという意欲をもって主体的に考えを交流する力を育成したいと考え、本主題・副題を設定した。まず、授業の導入から課題設定までの場面において、発問や教材提示等のしかけをしたり、考えや立場の相違を可視化したりするなど、教師の働きかけを工夫することで、問題解決の必要感・切実感をもたせたい。更に、考えを交流する対話的な活動の在り方を工夫することで、児童の話す意欲を喚起したい。このように、児童が自覚的に問いを共有し、考えを伝えたいという意欲や、話して伝える楽しさを実感することで、主体的に学ぶ児童を育成できると考える。

２　研究のねらい

児童が興味・関心、見通しをもって主体的に学び、対話的な活動を通して考えを広げたり深めたりするための授業づくりの在り方について、国語科の授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

学習課題の設定の仕方や話す意欲を喚起する対話活動を工夫することで、主体的・対話的に学び合う児童を育成することができる。

４　研究内容

(1) 問題解決的な授業づくりの工夫

ア　導入での働きかけの工夫（発問や活動指示、教材や問題の提示、教材にしかけ等）

イ　立場の表明（立場の相違の可視化・顕在化）

ウ　問いの共有（追究したい、解決したいと思わせる学習課題の設定）

(2) 話す意欲を高めるための対話活動の在り方の工夫

ア　「学び合うための学習ルール」を基本とした話し方や聞き方・話し合い方の習慣化。

イ　学習場面に応じた対話活動の内容や形態の工夫。

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	学年・授業者・題材名・授業の概要
６	２９	第１回授業研究（３学年） 授業者：教諭　工藤　真子 単元名　登場人物のへんかに気をつけて読み、感想を書こう 「まいごのかぎ」 (授業の概要) 導入で中心人物りいこの表情をマークで可視化し、表情の変化について発問したことで児童全員が意思表示をでき、課題を共有することができた。また、りいこの気持ちの変化について、３人組で短冊を用いて交流したことが、発言することへの抵抗感を取り除き、話す意欲を高めることにつながった。
７	１３	第２回授業研究（２学年） 授業者：教諭　上柿　拓子 単元名　お話を読んで、かんそうを書こう「スイミー」 (授業の概要) ばらばらに提示した挿絵を正しく並べ替えたり、吹き出しの内容を考えたりする活動を通して、登場人物の変化に気付くことができた。スイミーの気持ちを一文で表したものを交流する際に、聞く観点を与えたこと、３人組から全体へと形態を広げたことで話す意欲が高まった。
１１	９	第３回授業研究（５学年） 授業者：教諭　久保沢　達哉 単元名　資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう 「固有種が教えてくれること」 (授業の概要) 資料を除いた本文のみを音読し、本時で初めて資料を提示したことが効果的であった。ばらばらに提示したことで、資料の必要性を実感し、文章と照応させる活動に意欲的に取り組むことができた。対話活動をする際に、交流のねらいと手順を明確にすることで､児童が目的意識をもって話し合うことができた。

(2) 一般研修

月	日	内容・講師
４	２７	特別な支援を要する児童の共通理解のための研修
５	２５	出前講座　国語科における授業づくりについての研修　　講師　福田秀貴先生
６	１５	図工科　描画に関する研修　　講師　川村真弓先生
８	１９	出前講座　国語科における授業づくりについての研修　　講師　福田秀貴先生
９	１４	音楽科　器楽の指導に関する研修　　講師　新井山雅行先生
１１	２	特別支援教育に関する研修(あおぞら学級、わかくさ学級 授業公開)
２	１５	生活科・総合的な学習の年間指導計画についての研修

６　研究の成果

(1) 導入において、学習課題の設定や提示の仕方を工夫したことにより、思考のズレが生まれ、児童が「考えたい」という意欲をもって生き生きと学習に取り組むことができた。

(2) 個人で考えをもつ際に、赤白帽子やネームプレート、表情マーク、短冊等を活用し、立場や主張を可視化したことで、友達の考えとの共通点や相違点を考えながら安心感をもって活動することができた。

(3) 対話活動のルールを明確にし、ペアや３人組での対話活動の内容や方法を工夫することで、自分の考えを相手に伝えようとする意識が高まり、分かりやすい話し方で表現することができる児童が増えてきた。

７　研究の課題

(1) 対話活動において、考えを伝え合って共有することにとどまっていることが多い。相手の話を聞いてつなげる､広げるなど､日常的に話す･聞くスキルの基礎を作る取組を行うことで、考えを深められる児童の育成を目指していきたい。　　（記入者　上柿　拓子）